

建築研究所すまいづくり表彰 地域住宅賞 【地域部門】

地域と共に生きるための持続可能なライフスタイルを創造する取組み

市町村名：福島県大沼郡三島町

【応募者名】団体名：一般社団法人 I O R I 倶楽部 住所：福島県大沼郡三島町早戸字湯の平687
連絡先：TEL：080-1668-9643 FAX：0241-42-7177

地域性への配慮事項

会津地域は国内でも有数の豪雪地帯であり、可住地域の殆どが中山間地域であるため、日々の暮らし、インフラの維持、産業の立地といった様々な面において、困難が伴う地域となっている。県内は元より国内でも有数の、過疎化・高齢化・少子化の進行した地域でもあり、生活基盤の存続に危機感が漂っている。

近年はグローバル化の観点から、国を挙げて産業基盤の再構築が図られており、林業や建設業においても、集約化・効率化を伴う新しい生産システムが、全国各地で稼働を始めているが、会津においては地勢的要因、気候的要因から、馴染まないものとなっている。

この地において求められているものは、豊かな自然環境、歴史に裏打ちされた伝統や文化を守りながら、質の高い暮らしを連綿と未来へ繋いで行くための、価値観の共有と、持続足らしめるための新しい生活スタイルの提案である。

取組みの概要

会津地域が抱えている現代の社会構造に起因する根の深い課題に対して、解決の糸口となるような提案を行い、提案を具現化させるための「場」をつくる事で、関係者間のコミュニケーションを活性化させ、解決に向けての活動が有機的に広がって行く取組みをデザインし、実践している。

■ 現在までに取り組んできた「場」づくりには次のようなものがある。

- ◆ 会津材の特徴と地元大工の伝統的な技術を活かした、木造コンセプトハウスの設営および運営。
- ◆ 原発事故による被災者の長期避難生活を支えるための、杉板倉の木造仮設住宅建設とその後のサポート。
- ◆ 被災者と共に、長期避難生活の先にある、新しいライフスタイルをデザインするための取組み。
- ◆ 古民家をシェアオフィスとして再生し、中山間地域にベンチャー企業家の定住を促進する取組み。
- ◆ 避難者のニーズを鑑みた、移築可能な復興住宅のコンセプトを、週末農業向けの小屋を建設する過程において実験。
- ◆ 中山間地域の古民家を学びの場とし、アーティストとの連携で子供の五感を育む暮らしを提案。
- ◆ 今後、地域において急増する空き家の問題に対し、管理・活用等の相談体制を整備する取組みを開始。

取組みの特徴

- ◆ 課題の解決において、既存の枠組みの外から客観視する事によって、常識に囚われない柔軟な発想の解決策を生み出す努力をしている。
- 例えば、飛び腐れ等でリスクが高く、市場競争力が低い会津材の活用を考える場合、既存の流通に乗らない、長尺大断面材を標準的に扱える仕組みを構築する

事で、オリジナリティーを打ち出す事が出来るようになり、雪国ならではの骨太な民家を範とする、伝統的な住まいづくりの継承にも繋がる。

また、応急仮設住宅に対する過去の反省から、福島における仮設住宅の再構築を試み、従来の発想から脱却して「長期避難者の生活を支えるための(仮設ではない)住まいを、スピーディ且つ限られた予算の中で、如何にして質の高いものを提供できるか」というコンセプトに立脚してプロジェクトを遂行した結果、復興住宅への転用を可能とする木造建築が生まれた。

◆ 従来の枠組みとは一線を画す取組みを行うにあたり、ステークホルダー間のコンセンサス作りを丁寧に行う事にも留意している。

全てのプロジェクトにおいて、地域住民・行政・サービスや商品の利用者および提供者・連携する団体や個人の参画を促すと共に、相互のコミュニケーションを図る機会を考慮し、意見や提案を計画策定段階もしくは事業途中でも反映させ、より良いものに創り上げて行くための仕組みのデザインを行っている。

往々にして事業の計画立案から執行に至るまでに時間を要する事態になっているが、結果として納得のいく成果が生み出される事に繋がっている。

I O R I 倶楽部が行って来た取組み

青字 は「場」づくりに関連する取組み

- 2010年 6月 任意団体「奥会津 I O R I 倶楽部」発足
- 2010年 7月 国土交通省「地域材活用木造住宅振興事業」木造コンセプトハウス「つるの I O R I」着工
- 2011年 3月 「つるの I O R I」竣工、運用開始、コミュニケーション紙「I O R I」発行開始(現在 vol.7)
- 2011年 4月 木造応急仮設住宅整備事業の公募に参画(コンセプト立案・資材調達・施工体制整備を担う)
- 2011年 10月 約半年間で、いわき・会津若松・金山・只見に206世帯の「杉板倉の木造応急仮設住宅」を建設
- 2012年 1月 「ふくしまの家」復興住宅供給システムプロポーザルに参加(モデルプラン作成団体に選定)復興に向けての新しいライフスタイル「I O R I 生活」を提案
- 2012年 2月 「地域内のバイオマス活用による被災者の救援と新規雇用創出事業」を県に提案
- 2012年 3月 緑の住宅普及支援事業「100年杉の雪上伐倒見学会」を開催
- 2012年 5月 福島県地域協働モデル支援事業「被災者のためのライフスタイルデザイン支援事業」を実施
- 2012年 9月 林業研究グループ等活動発表会(東北大会)にて成果発表
- 2013年 1月 アーティスト in レジデンス事業「精神の<北>へ」を国際交流基金と共催
- 2013年 3月 「交流による恒久的生活への移行支援体制構築事業」を県に提案
- 2013年 4月 空古民家の再生による体験交流施設整備事業「清匠庵」竣工
- 2013年 6月 再生古民家におけるIT企業とのサテライトオフィス実験事業開始
- 2013年 7月 「一般社団法人 I O R I 倶楽部」に改組 法人設立
- 2013年 9月 「復興に向けた木の暮らしシンポジウム」への参加、事例発表
- 2013年 10月 緑の住宅普及支援事業「100年杉の新月伐倒見学会」を開催
- 2014年 1月 都市農山村交流のための「奥会津大交流フェア」に参加(東京で開催)
- 2014年 2月 「地域型復興住宅による住まいの復興活動支援マニュアル」への記事掲載および調査事業を実施「週末農業向けの作業小屋新築に伴う移築可能性と避難者のニーズ把握に関する調査事業」
- 2014年 4月 福島芸術計画「森のはこ舟アートプロジェクト2014」に参画、計画立案および実施にて協力
- 2014年 8月 「古民家を学びの場とした子供共の五感を育む暮らし」を提案
- 2014年 9月 「空民家活用による地域活性化の研修会」を、会津未来創造推進本部と共催
- 2014年 10月 「福島県会津地域における空き家管理・活用等の相談体制整備事業」を開始、事業遂行中

